

檀越某御返事

御書新版 1718頁 11行目〜1719頁 2行目
御書全集 1295頁 7行目〜8行目

さておわするこそ、法華経を十二時
に行ぜさせ給うにては候らめ。あなか
しこ、あなかしこ。

御みやづかいを法華経とおぼしめ
せ。「一切世間の治生産業は、皆実相
と相違背せず」とは、これなり。

通解

そのようにおられることこそが、
法華経を昼夜にわたり修行されてい
ることになるのです。くれぐれもよ
く心得なさい。
日々の出仕を法華経の修行である
と思いなさい。「あらゆる一般世間の
生活を支える営み、なりわいは、全
て実相（妙法）と相反することはな
い」と説かれているのは、このこと
です。

語句

十二時

一昼夜のこと。当時は1日が12の時刻に区分されていた。

みやづかい

貴人の家に仕えること。主君・主家に仕えること。

治生産業

生活を成り立たせ支える営み、なりわい。

実相

ありのままの真実のすがたのこと。